

年 組 名前：

問1

災害が起きた時の原則とされる

「同行避難」という言葉の意味を

書いてください。

.....

.....

.....

問2

ペットの損害保険会社が行ったアンケートによると、

「同行避難」の意味を理解していた

飼い主はA%だったのに対し、

それが避難時の原則と認識していたのはB%にとどまりました。

A、Bに入る数字は何ですか。

① 「 %」

② 「 %」

問3

災害時のためにペットに対して飼い主が行っている防災対策を、いくつか挙げてください。

.....

.....

.....

同行避難の原則理解15%

災害時にペットと避難所まで一緒に逃げる「同行避難」という言葉の意味を理解している飼い主は55・7%に上ったのに対し、それが避難時の原則との認識は15・5%にとどまる。ペット保険会社「アイペット損害保険」(東京)が2月に実施したアンケート

損保調査 飼い主に周知進まず

でこうした結果が出た。ペットを連れだした避難は災害のために課題となり、環境省は同行避難を原則とする指針を策定。避難所での受け入れ態勢整備を自治体に促しているが、飼い主側には十分に浸透していない状況が浮かんた。同社の担当者は「飼い主側の積極的な情報収集に加え、自治体側も同行避難の重要性を周知することが大切だ」と話している。

アンケートはインターネッで実施し、犬の飼い主565人、猫の飼い主476人から回答を得た。言葉の定義を示してそれが「同行避難」を指すと答えられた人の割合は昨年のアンケートより3・9%増えたものの、それが避難時の原則とされることの認識は1・8%減少。「最寄りの避難所がペットを連れて避難できるか知らない」と答えた人は81・7%に上った。

ペットのための防災対策を「している」は21・6%。具体的内容を複数回答で尋ねると、犬では「待て」や「おすわり」など「基本的なしつけ」が59・0%、猫では「ケージに慣れさせる」が49・4%でそれぞれ最多。「ペットと避難訓練している」と答えた飼い主は犬9・0%、猫8・6%だった。

(2021年4月4日付 山梨日日新聞 13面)